

いわゆる地震予知は、地震が発生する時期と場所、そしてその規模を限定して予測するものであるが、現在の技術ではこれを高い確度で行うことは極めて困難とされている。

このように地震予知が困難な状況において、地震学の研究成果を活用して地震（津波）を観測・解析し、その結果を警報・情報として速報することは、地震津波災害の防止・軽減にどのように寄与しているだろうか？地震津波観測及びその情報発表の現状と目的を解説するとともに、今後の情報改善の方向性について考察する。



講師

関田 康雄氏

MS&ADインターリスク総研株式会社
顧問

東京大学大学院理学系研究科地球物理学修士課程修了後、気象庁入庁、気象研究所、国土庁防災局、気象庁地震火山部等において、地震火山防災、地震津波防災情報の改善等に従事。2013年大阪管区気象台長、2014年気象庁地震火山部長、2016年気象庁予報部長を経て2019年気象庁長官に就任。2021年より現職。

2022年11月4日(金)
16:20-17:50

オンライン開催(無料)
参加登録はこちら▶



主催：東北大学大学院国際文化研究科

共催：東北大学グリーン未来創造機構

後援：MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社

MS&ADインターリスク総研株式会社

本講演会はMS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社からの寄付を受けて国際文化研究科国際政治経済論講座 (IPE: International Politics and Economics)が実施しております。

お問合せ: ipe.gsics@gmail.com

地震津波情報は
災害防止に寄与しているか？

第2回 IPE・SDGs 講演会